

ジョン・ケリー米気候問題担当大統領特使
ビデオメッセージ 和文仮訳

場所の力は、前進に向けた驚くべき力となり得ます。2016年に国務長官として広島を訪れた際、私は戦争という選択が持つ並外れた複雑さ、そして戦争が人々に何をもたらすのか、その一端を身をもって知っただけでなく、社会や国、そして世界全体に何をもたらすのかに衝撃を受けました。核兵器の脅威をなくすために、世界のため、私たちの未来のために、私たちが協力しなければならない理由を、強く思い知らされました。

今、長崎に集まっている皆様も同じように重要な意味を持たれていますが、私はドバイで気候変動枠組条約第28回締約国会議（COP28）に参加しています。COP28では、国際社会が気候危機というもう一つの存亡の危機に直面しています。これらは共通の脅威であり、双壁をなす脅威です。そして、冷戦以来経験したことの無い形で核兵器が舞台の中心となっているまさにその瞬間に、気候危機の影響が強まっているのを目の当たりにしています。

70年前のこの日（12月8日）、アイゼンハワー大統領は国連総会で「平和のための原子（Atoms for Peace）」演説を行い、国際原子力機関（IAEA）の設立に直接つながりました。IAEAは現在、加盟国が低炭素エネルギー源として原子力を開発することを支援する一方、原子力技術の平和的利用が核拡散や核戦争のリスクを増大させないように保障措置を適用し、両方の脅威に対応する最前線に立っています。

私は若い海軍将校として、米軍の核・化学・生物兵器学校に派遣されました。そこで私は、核戦争が私たちや私たちの子供たち、地球の未来にとって破滅的であることを具体的に学びました。しかし、私たちが団結し、行動を起こせば、課題は解決できるということも学びました。変化する国際情勢と物理的環境により、軍備管理の重要性はさらに高まりました。

バイデン大統領は2年も前に、他の核兵器国4か国の指導者たちとともに、核戦争の防止と軍拡競争の回避に関する声明を発表し、核戦争に勝者は無く、決して戦ってはならないという原則を確認しました。言葉だけでは不十分であることは明らかです。世界中で緊張が高まっている今、私たちは、責任ある行動規範の強化、危機管理コミュニケーション、リスク低減措置の全てが、大惨事を回避し、安定を促進するために極めて重要であることを理解しています。皆様は、私たちが直面している問題の重大さ、深刻さをご存知でしょう。私は、共に前進するために行動を起こしていることを誇りに思います。

そして、私を広島訪問に招待してくださった友人の岸田総理に感謝します。この賢人会議の国際的なリーダーらとの共同の御尽力に感謝します。立場の異なる核兵器国と非核兵器国の参加者をまとめるという貴総理の努力は、私たち全員がしなければならない重要な仕事の素晴らしいモデルです。

私の友人である皆様、この問題の進展には時間がかかり、しばしば困難が伴いますが、何世代にもわたって安全な地球という大きな見返りがあるものです。核兵器のない世界を実現するためには、私たちの継続的な協力と協調が不可欠です。「核兵器のない世界」と聞いて、核兵器が人々の核兵器使用を防いでいるのではないかと、言う人がいることは承知しています。その答えは、確かにある程度はそうです。そう、それが抑止力なのです。しかし、核兵器への依存から脱却し、抑止力の必要性から脱却し、戦争、全ての戦争から生じる大惨事の可能性から脱却するために、国として、国民として、私たちが取る一歩一歩が、実際に世界をより安全にしているのです。だから、私たちが今生きている世界でこの可能性を測ってはいけません。私たちが共に創り出すことのできる世界によって測ってください。そして、この会議と総理がされようとしていることは、正にそういうことなのです。ありがとうございました。